

令和7年12月16日(火)

あさひの日だまり

NO.28

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～懇談会ありがとうございました～

ご来校感謝申し上げます

今週の火曜日まで保護者懇談会が行われました。担任の先生がインフルエンザでお休みをもらっていたクラスにつきましては現在5校時以降の時間を利用して継続して懇談会を行わせてもらっています。懇談会の日程変更に関しましては、あらかじめ会社へお休みを申し出ていた方もいたことと思います。再調整のご迷惑をおかけしました。ご配慮本当に感謝申し上げます。

懇談会へのご来校改めまして心より感謝申し上げます。子どもたちの成長にとってプラスに働く懇談会になったならこんなに嬉しいことはありません。

きっと懇談会では家庭では見せないお子さんの素敵な姿を担当から伝えられたことと思います。どうぞ「先生がこんな素敵な姿が見られるんですよとほめてくれたよ、先生の話を聞いてて本当に嬉しくなっちゃったよ」とお話ししてあげて下さい。そういうお話を聞いて子どもは成長していきます。また、懇談会で伝えきれなかったこと等学校へ知らせておきたいことがありましたら遠慮なく担任までご連絡ください、校長へ直接話したいことがありましたらご連絡いただければ幸いです。

私にとっての懇談会といえば、学校でのよくない行いを親に告げられるあまりうれしくない機会でした。

小学校の懇談会の一番の思い出は、家に帰ってきた母親から「先生から授業中に席を離れて立ち歩いているという話を聞いたけど本当か？」と問い詰められたことです。自分なりに学校での生活を思い出してみてもそんな記憶はありませんでしたので「そんなことないよ」と答えたのではなかろうかと思っています。

しかし、翌日学校で母親の言葉を思い出して我が身を振り返ってみると、みんなが問題を解いている間に確かに机を離れて私は出歩いていたのです。そういう私の姿を見ても決して先生は叱りませんでした。その時の私は、多分友だちの答えをのぞきに行ったり後ろの棚に勝手に用をたしに行ったりしていたのだと思います。自分でも気が付かないうちに勝手に席を離れていました。「あ～このことを先生は言っていたんだ」と自覚して納得した思い出があります。

「周りが席についているときは勝手に席を離れないようにしましょう」と心に決めてそれ以後は席を離れないように自分なりに注意していました。もしあの時先生が母親に離席のことを伝えてくれていなかったら私のふらつきはその後も続いていたでしょう。そして、先生は怒っているわけではなくて、面白い子ですねと笑いながら話してくれたということも母から聞きました。そうやって優しく私を見守ってくれていたことも今から考えるとありがたいことでした。何をやってもなかなか人並みにできず自分に自信が持てないでいた私にとって、席を離れることも問題だと言われたらさらに私の自己肯定感はずり下がったに違いありません。落ち着いて自分を顧みて自分で行動を修正できるチャンスを頂けたことに今でも感謝しています。

担任の先生から何か課題を指摘されたようなときは「頑張ってごらん、あなたにはできる力があると思うよ」と励ましてあげて下さい。「よしやってみよう」という気持ちを持てることそのものがすでに大きな成長です。

～「かたりんば」の皆さんのお話会がありました～

辰野町に伝わる昔話を題材にしたお話会を学校や福祉関係の施設などで開いておられる「かたりんば」の皆さんが読書旬間にあわせて来校してくださいました。私は5・6年生と一緒に話を聞かせていただきました。お話は3つでした。どのお話しも私は初めて聴かせてもらう内容でした。私の育った宮田村にも昔話が残っているのですが、こういう話を聞かせてもらう機会はなかったように記憶し



ています。きっと辰野町は昔話の文化を大切に大切に語り継いできたのだらうと思います。

当日は手描きの大きなパネルが用意されており音響も工夫され、お子どもたちは「自分の生まれるずっと前にこの地域でそういうことがあったんだ」と想像を膨らませながらお話しに聴き入っていたことと思います。私も「もしかしたら本当に物語の登場人物が実在していたかもしれないな」などと思いながらお話しに引き込まれていきました。

クリスマスに関わるちょっと素敵なお話があります。私も心を動かされる部分がありましたので紹介します。もしよろしければお読みください。『世界一有名な社説』というお話しです。

世界で一番有名な社説、「サンタクロースは実在するのか」は、1897年9月21日、アメリカ合衆国の新聞ザ・サンに掲載された社説です。8歳の少女が同新聞社に質問の手紙を出し、同社の記者フランシス・チャーチによって質問に返答する形で社説が執筆されました。以下がその社説です。

本紙は、以下に掲載される投書に対してただちに答え申し上げるとともに、
このようにまっすぐな方が読者におられることを、心から嬉しく思います。

こんにちは、しんぶんのおじさん。わたしは八さいのおんなのこです。じつは、ともだちがサンタクロースはいないというのです。パパは、わからないことがあったら、サンしんぶんにきけばまちがえない、というので、ほんとうのことをおしえてください。サンタクロースはいるのですか？ ヴァージニア・オハンロー

ヴァージニア、それは友だちの方が間違っているよ。きっと、何でも疑いたがる年頃で、見たことがないと、信じられないんだね。自分のわかることだけが、全部だと思ってるんだらう。

でもね、ヴァージニア、大人でも子どもでも、何もかもわかるわけじゃない。この広い宇宙では、人間って小さな小さなものなんだ。僕たちには、この世界のほんの少しのことしかわからないし、本当のことを全部わかろうとするには、まだまだなんだ。

実はね、ヴァージニア、サンタクロースはいるんだ。

愛とか思いやりとか労わりとかがちゃんとあるように、サンタクロースもちゃんというし、そういうものが労わり溢れているおかげで、人の毎日は、癒されたり潤ったりする。もしサンタクロースがいなかったら、ものすごく寂しい世の中になってしまう。ヴァージニアみたいな子がこの世にいないくらい、ものすごく寂しいことなんだ。サンタクロースがいなくてことは、子どもの素直な心も、作り事を楽しむ心も、楽しむ人を好きって思う心も、みんなないってことになる。見たたり聞いたり触ったりすることでしか楽しめなくなるし、世界をいつも温かくしてくれる子どもたちの輝きも、消えてなくなってしまうだらう。

サンタクロースがいらないだなんていうのなら、妖精もいないっていうんだらうね。

だったら、パパに頼んで、クリスマスイブの日、煙突という煙突全部を見張らせて、サンタクロースを待ち伏せしてごらん。サンタクロースが入ってくるのが見られずに終わっても、なんにもかわらないそもそもサンタクロースは人の目に見えないものだし、それでサンタクロースがいなくてことにもならない。

本当の本当っていうのは、子どもにも大人にも、誰の目にも見えないものなんだよ。妖精が原っぱで遊んでいるところ、誰か見た人っているかな？ うん、いないよね、でもそれで、ないって決まるわけじゃない。世界で誰も見たことがない、見ることができない不思議なことって、誰にもはっきりとはつかめないんだ。

あのガラガラっておもちゃ、中を開ければ、玉が音を鳴らしてることがわかるよね。

でも、目に見えない世界には、どんなに力があっても、どれだけ束になってかかっても、こじ開けることのできないカーテンみたいなものがかかっているんだ。素直な心とか、あれこれ逞しくすること・したもの、それから、寄り添う気もちや、誰かを好きになる心だけが、そのカーテンをあけることができ、その向こうのすごく綺麗で素敵なものを、見たたり描いたりすることができる。嘘じゃないかって？ ヴァージニア、いつでもどこでも、これだけは本当のことなんだよ。

サンタクロースはいない？ いいや、今このときも、これからずっといる。ヴァージニア、何千年、いやあと十万年たっても、サンタクロースはいつまでも、子どもたちの心を、わくわくさせてくれると思うよ。

私はこの文を読んで、「見えないものを信じる心」を持てるようになりたいものだと思います。